

# Ⅰ 研究主題について

## 1 研究主題

### 自らめあてをもち 豊かにかかわり合う 体育学習 ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

## 2 主題設定の理由

### (1) 学習指導要領の趣旨から

学習指導要領等の枠組が見直され、身につけさせる資質や能力として「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう人間性等」の育成を重視されている。体育科改定の要点では、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培う観点が重視されている。また、体験的な活動を重視し、「する・みる・支える・知る」といったスポーツとの多様なかかわり方や保健の技能について内容が改善されている。

### (2) 体育科の今日的課題から

子どもの体力の低下傾向の深刻化、積極的に運動する子どもとそうでない子どもの二極化が見られ、生涯体育の観点からも運動好きな子どもを育てる必要がある。また、人間関係が希薄になり、友だち同士でのコミュニケーションを苦手とする子どもが増えてきている傾向も見られることから、仲間とかかわり合う場を設け、相手を思いやる心や認め合う態度などを育てていく必要がある。

授業においては、児童の実態に応じて、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決する学習の中に、学習内容の確かな定着をねらった活動や場面をバランスよく組み込んでいく授業展開が求められている。

### (3) 本校の教育目標から

本校では、「豊かな心と確かな学力を身につけ、心身ともにたくましい『木倉っ子』の育成～すべての教育は子どもたちの姿から～」の教育目標を具現化するために、児童一人一人のよさを伸ばす教育を推進することや豊かな人間性とたくましい体をはぐくむことをめざしている。

### (4) 児童の実態と教師の指導の状況から

「教科体育の充実」においては、これまでの継続的な取組により、児童の体育授業に対する関心意欲は高く、9割程度の児童が「体育は楽しい」と答えている。教師の指導の状況としては、平成21年度から意図的・計画的な学習計画と評価計画を作成し、実践を積み重ねてきた。しかし、更なる児童の主体的な課題解決学習を求めて、児童が豊かに学び合う中で、自らめあてをもち豊かにかかわり合いながら生き生きと学ぶ授業作りを今後も行っていく必要がある。

「体力の向上」においては、今年度の体力テストの結果から、柔軟性や瞬発力、投力に課題が見られた。課題の改善に向けては、生涯体育につなげるという視点から、トレーニング中心ではなく、児童が主体的に取り組むために、「運動遊び」「かかわり合い」「日常化」をキーワードとした取組を行っていく。

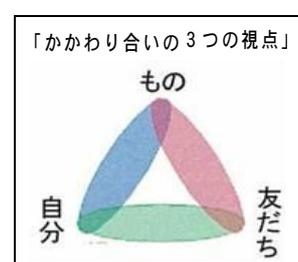
### 3 主題のとらえ方

#### (1) 「自らめあてをもつ」とは

「自らめあてをもつ」とは、運動を楽しみたいという欲求から、進んで課題をもつ姿であり、自ら考えたり活動を工夫したりして課題解決をめざし、運動のもつ魅力に、より積極的に触れていく姿であるととらえている。

#### (2) 「豊かなかかわり合い」とは

「豊かなかかわり合い」とは、「自分」「友だち」「もの（場やコート、ボール、ルールなど）」との対話から運動の世界を広げていくことである。「運動の得意、不得意にかかわらず、全員がその運動のもつ特性に触れた楽しみ方を獲得するにはどうしたらよいか」を仲間とともに考え、協力して学習を創り上げていく姿だととらえている。



#### (3) 「体育学習」とは

本校では、体育学習を健やかな体をはぐくむための学習ととらえている。「教科体育」や「全校体育」を中心的な学習と位置づけ、体育的行事や休み時間の遊びなどは、補完的な位置付けにしている。

#### (4) サブテーマについて（主体的・対話的で深い学びとは）

体育科で目指す資質・能力の育成を目標とし、授業改善を推進するための視点として、このサブテーマを設定した。それぞれを以下のような児童の姿としてとらえた。

「主体的な学び」とは、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組み、考察するとともに学習をふり返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりする姿。

「対話的な学び」とは、運動や健康についての課題の解決に向けて、児童が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げたり深めたりする姿。

「深い学び」とは、運動や健康についての課題の解決に向けて、自己や他者と試行錯誤を重ねながら、思考を深め、集団としての考えを形成していく姿。

つまり、児童が運動の特性により深く触れ、主体的な課題解決学習に取り組み、豊かにかかわり合う中で、体育学習の楽しさを味わうことができると考える。

II 研究の構想

1 研究の全体構想図

# 研究構想図

## 学校教育目標

豊かな心と確かな学力を身に付け、心身ともにたくましい「木倉っ子」の育成  
～すべての教育は子どもたちの姿から～

## 研究主題

自らめあてをもち 豊かにかかわり合う 体育学習  
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

## 研究の仮説 1：教科体育の充実

身に付けさせたい学習内容を明確にし、以下の4つの視点を中心とした指導・評価の工夫を行えば、児童は仲間とともにより運動の特性にふれた楽しさを味わうことができ、主体的・対話的で深い学びを実現することができるであろう。



## 視点 2 教材、場づくり・教具の工夫

身に付けさせたい学習内容（学習指導要領）

児童の実態

運動の特性

教師の思い・願い

## 研究の仮説 2：体力の向上

児童の課題を明確にし、以下の2つの視点を中心とした学校全体の取組を行えば、児童は仲間とともに「伸びる」楽しさを味わうことができるであろう。

2 研究の仮説と視点

《仮説1：「教科体育の充実」》

身に付けさせたい学習内容を明確にし、以下の4つの視点を中心とした指導・評価の工夫を行えば、児童は仲間とともにより主体的に運動に親しめることができる。主体的・対話的で深い学びを実現することができるであろう。

【視点1】意図的・計画的な教師の直接的指導の在り方

身に付けさせたい学習内容（技能や技能にかかわる思考・判断）を、いつ、どのように指導するのか整理し、計画を立てる。さらに授業の中に、技能のこつやポイントを児童とともに明らかにしていく場面を設定する。

【視点2】教材、場づくり・教具の工夫

学習内容を効果的に身に付けさせることができるように、運動の特性や児童の実態を踏まえて教材、場づくり・教具を工夫する。

【視点3】めあてのめたせ方の工夫

主体的な課題解決学習に取り組むことができるように、自分の課題に合っためあてをもてるように工夫する。

【視点4】学び合う場の工夫

互いの動きを高め合うような言葉かけを増やしていけるように、直接的指導場面で共有化したものや児童の気付きによる発見ボードを活用したり、ペア学習・グループ学習を取り入れたりして、学び合う場を工夫する。

【その他】

学び合いを活性化し、「深い学び」につなげるためにICT機器を効果的に活用する。また、授業の初めにスイッチオンタイムを導入して運動の心地よさを体感させ、「苦手意識をもつ児童」を運動に引き込むための手段とする。さらに、自己評価、相互評価、教師からの評価により、指導に生かすための評価を工夫する。

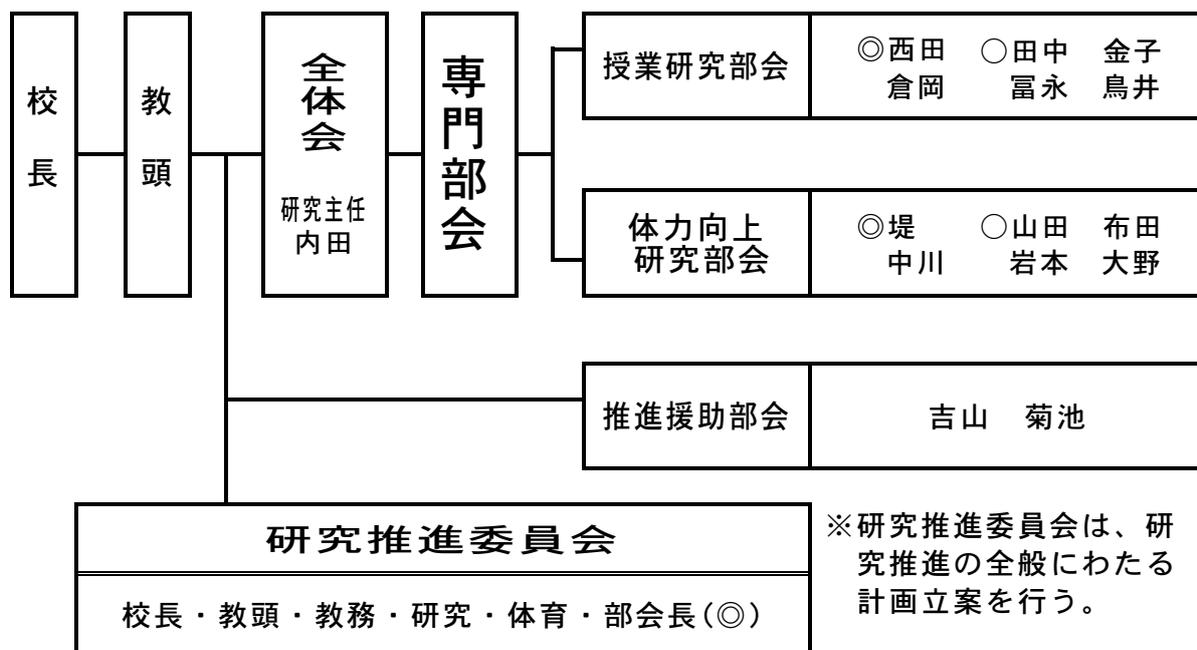
《仮説2：「体力の向上」》

児童の課題を明確にし、以下の2つの視点を中心とした学校全体の取組を行えば、児童は仲間とともに「伸びる」楽しさを味わうことができるであろう。

【視点1】体力の向上をめざす「時間」と「場」の設定

児童が仲間とともにかわり合いながら、運動に親しむ時間と空間を設定する。トレーニング的なものではなく、夢中になって体を動かす遊びの中で自然と体力が高まることをめざす。

3 研究の組織 (◎：部会長 ○：副部会長)



4 研究の経過と今後の予定

月	内 容	月	内 容
4	○年間計画と研究主題について	10	○講師招聘授業研究会 (2年「ボールゲーム」倉岡・堤) (5年「ボール運動」西田・布田) 〈上益城教育事務所 梅田指導主事〉 〈御船町教育委員会 大脇指導主事〉 ○研究発表会に向けて
5	○研究組織と構想について ○専門部会		
6	○研究授業事前研	11	○研究発表会授業事前研 ○発表会の資料作成 ○研究発表会授業事前研 (6年「体づくり運動」内田・岩本)
7	○研究授業・事後研 (6年「マット運動」内田・岩本) 〈御船町教育委員会 大脇指導主事〉	12	○研究発表会に向けて ○研究論文の作成について ○2学期の実践の振り返り
8	○専門部会	1	○研究論文の作成

	○指導案・教具・場づくり検討会		○町指定教科体育研究発表会
9	○研究授業事前研 ○講師招聘授業事前研 ○授業研究会（外国語活動）	2	○研究授業事前研 ○授業研究会（道徳）
		3	○今年度の振り返り ○来年度に向けて